

1～12 … 市役所、連絡協議会、HP へ掲載分

1～18 … 認定こども園協会

「認定こども園」 経過報告書

学内研修・記録資料

幼保連携並列型認定こども園となり、5 か月。
その間を振り返り、また、それ以前の歩み、「幼稚園単独型」へも遡った
認定こども園に関する報告書です。

ページ案内

- 1 表紙
- 2 その他添付資料一覧
- 3 「幼稚園単独型」認定こども園認定へ向けての経緯の資料
- 4 預り保育事業→幼稚園単独型認定こども園の運営状況の推移
- 5 その後、「並列型」に進んだ理由
- 7 教職員の報告書
- 12 見学・講演実績

～ 以下内部資料 ～

- 13 「幼保連携検討室」改め「幼保連携推進室」へ
→平成 27 年度法制度施行に向けた検討部会の設置
- 14 研修および部会の議事録
- 15 法制度施行に向けて「入園方法の変更」
- 16 法制度施行に向けて「学内対応案」
- 17 入園形式のモデル（その 1）と、プレ教室の位置づけ
- 18 入園形式のモデル（その 2）と、プレ教室の位置づけ

東村山むさしの認定こども園

教育部・東村山むさしの幼稚園

保育部・東村山むさしの保育園

学園長・野澤貴春

その他添付資料

- ✚ 「幼保の架け橋構想」
～就学前教育・保育の拡充、そして、先々を見据え、地域や高齢者を含めた福祉と教育の施設を目指して～
 - 具体的構想
 - 併設案
 - 幼保連携の理由
 - 現状の対策と今後
- ✚ 「併設保育所の形態考」
- ✚ 「理想的な「教育・保育・地域」の総合施設に向けて」
- ✚ 「用地計画」
- ✚ 「就学前教育・教育に関する新対策の提案と実現に向けて」
 - 望まれる就学前教育施設と保育施設の相互乗り入れ
 - 幼保各々の概念を新たに見直す新システム
- ✚ 「保育部併設計画」
 - 就学前教育的機能を備えた保育部の併設
- ✚ 「市内全域にわたる就学前教育と保育の向上を見据えた互いの連携システム案」
- ✚ 「幼保連携に関する長期的な計画と取り組み」
 - 機能向上を伴う合理・効率化
- ✚ 「保育所併設計画を含めた今後の狙い」（内部向け資料）
- ✚ 「元教職員・関係者へのお知らせ」（再雇用狙い）
- ✚ 「養成校向けのお知らせ」（新規雇用狙い）
- ✚ 定例広報「制度の状況報告」（社員教育）
- ✚ 「より良きものを目指そう！」足を踏み入れなかった連携へ向かって
- ✚ 「事業計画のお知らせ」～保育部併設に関して～（保護者・関係者向け）
- ✚ 「駐車場整備計画」（保護者・関係者向け）
- ✚ 「地域の状況を踏まえた幼保相互の改革、ならびに、単独幼稚園の経営改革を目指して」
- ✚ 「付帯事業の構想」～正門の移動と機能向上～
- ✚ 「子どもを軸とした《市民の集う場》相乗効果を考える」
- ✚ 「むさしのの森《Scenes from Musashino Wood》」
 - 多岐にわたる要素を含んだテーマパークとして。
- ✚ 「東村山むさしの認定こども園」概要
- ✚ 「認定こども園とは」
 - 必要性和課題
- ✚ 「幼稚園か保育園、どうやって選ぶの!？」
- ✚ 「独自の連携体制」
 - 相互の役割や環境を生かし連携
- ✚ 「東村山むさしの保育園の紹介」
- ✚ 「保育部新設計画カード」広報
- ✚ 「新システム構築への足跡」（時系列の記録）
- ✚ 「幼稚園・保育園・関係者の皆様へ」お知らせハガキ
- ✚ 年代別目標
 - 年度ごと明確な課題を踏まえて動く（スタッフの意識向上と明確な目標の統一に向けて）
- ✚ 「出生率の低下、助成金の減額など、諸環境を含め見据えた将来イメージ」
- ✚ 「東村山むさしのグループ」組織表（教職員教育）
 - 各部署と長の役割
- ✚ 「東村山むさしのグループ」配置図（教職員教育）
- ✚ 税制改革に応じた年度ごと保育料改定のご案内（保護者・関係者向け）
- ✚ 「各部署の意識改革と構造改革がもたらす意味」（教職員教育）
- ✚ 駅前保育所（分園）案計画書（需要に応じた臨機応変かつ本園との連携型駅前保育所の提案）
- ✚ 敦賀における園長研修の講演資料
- ✚ 「私立認定保育所」を取り巻く法制度の特徴（教職員教育）
- ✚ 給食運営経費の変化
 - 現状と施設給付型へ移行後の運営経費の試算
- ✚ 幼保連携への軌跡「Movie」（経過の記録や広報を兼ねた動画）

参考資料

長期・長時間の預かり保育について

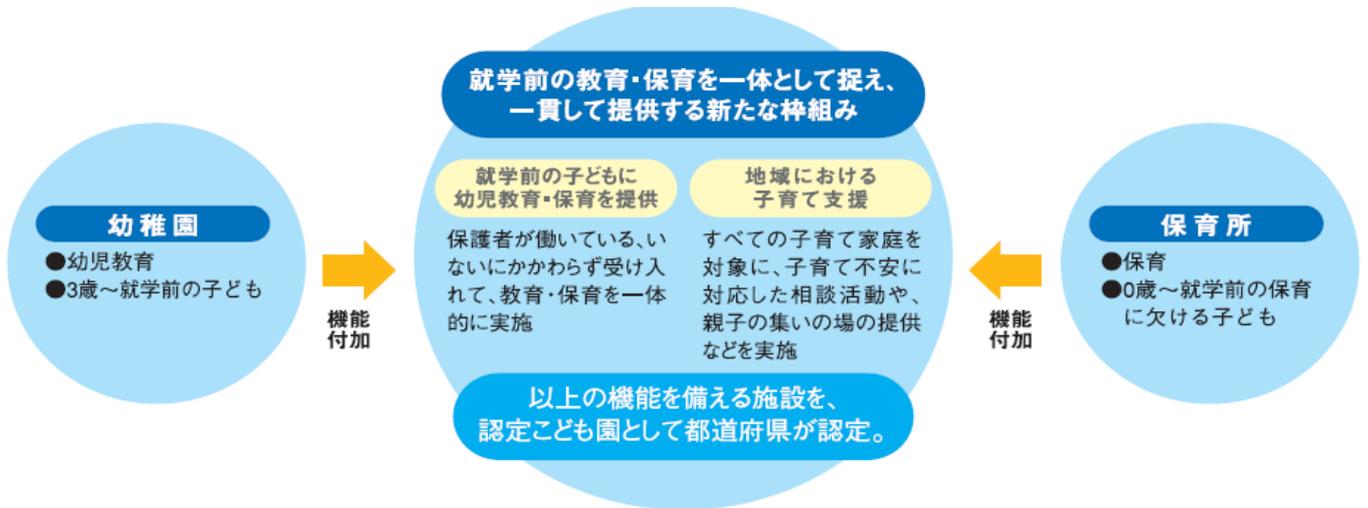
先日、文科省側私学部および厚労省側保健福祉部の方も交えての視察と懇談があり、認定に向けても最終段階となりました。様々な調整を経た上の、若干の修正内容がありますので、お知らせ致します。

- 長時間利用児の条件が「8時間以上の登園」という制約を払うことができず、②の「認定こども園要綱」では、ゆうがおA（通常の幼稚園～16時まで）のコースがなくなりました。
- 「長期・長時間ご希望の方」の要項が①と②の2枚ありますが、長時間（8時間以上登園）の子供たちは基本的に認定こども園制度の「長時間利用児」として申請しますので、②の表をご参照ください。
- ※①の「一般預かり保育要綱」の要項を参照するケースは、8時間未満利用である「あさがおコース」と「ゆうがおA」です。および、万が一一定員を大幅に超えた場合（認定を受けられない場合）の料金表です。
- ※ただし、実際には、「ゆうがおA」の子供は、「長時間利用児」の申し込みをし、②の「認定こども園要綱」の「ゆうがおB」をご利用していただいたほうが良いかと思われます。
- 前回お知らせした「ゆうがおA」（16時まで）の料金で17時まで預かれるよう見直しをしました。
- 夏休みなど長期休暇中の給食の提供につきましては、「費用負担が高くなるからお弁当希望」などのご意見もあり検討中です。どうしても園側での提供をご希望される方は、ご相談下さい。

【資料】

認定こども園制度というのは、国策である幼保一元化に基づき、幼保の枠それぞれの枠を柔軟にし、就学前の子供の教育を一体化しつつ、広く入園の選択肢を与えようとの狙いがあります。

幼稚園においては、従来の4時間と言う枠を超えて長時間の預かり保育を行い、また、保育園では幼児教育のカリキュラムを取り入れ幼稚園的要素も持たせることよという制度。様々な形があります。



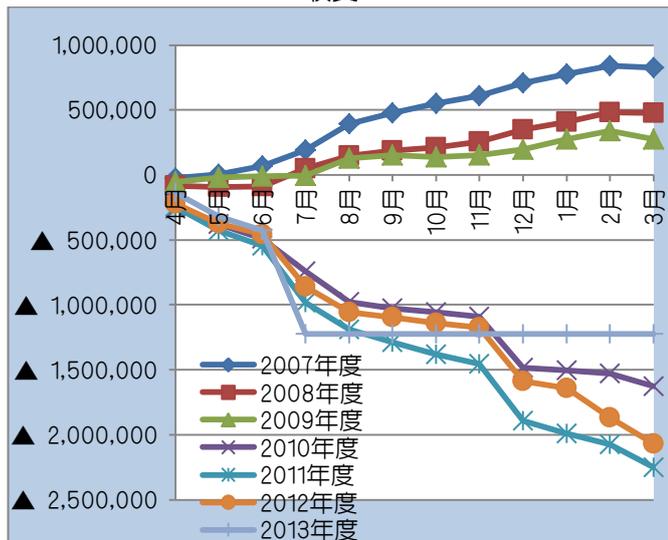
認定こども園には、地域の実情に応じて次のような多様なタイプが認められることになります。なお、認定こども園の認定を受けても、幼稚園や保育園等はその位置づけを失うことはありません。

<p>幼保連携型</p> <p>認可幼稚園と認可保育所とが連携して、一体的な運営を行うことにより、認定こども園としての機能を果たすタイプ</p>	<p>幼稚園型</p> <p>認可幼稚園が、保育に欠ける子どものための保育時間を確保するなど、保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たすタイプ</p>	<p>保育所型</p> <p>認可保育所が、保育に欠ける子ども以外の子どもも受け入れるなど、幼稚園的な機能を備えることで認定こども園としての機能を果たすタイプ</p>	<p>地方裁量型</p> <p>幼稚園・保育所いずれの認可もない地域の教育・保育施設が、認定こども園として必要な機能を果たすタイプ</p>
---	--	--	--

❓ むさしの幼稚園は、この中の「幼稚園型」。時々、「**保育園になるんですか？**」「**保育所ができるんですか？**」そんな質問を受けるのですが、幼稚園は幼稚園でそのままなんです。制度の中では、今までどおり通常幼稚園に通う子供たちを「短時間利用児」と呼び、預かり保育を利用し継続的に長時間幼稚園にいる子供たちを「長時間利用児」と呼びます。

預り保育部(預り保育事業→幼稚園単独型認定こども園の運営状況の推移)

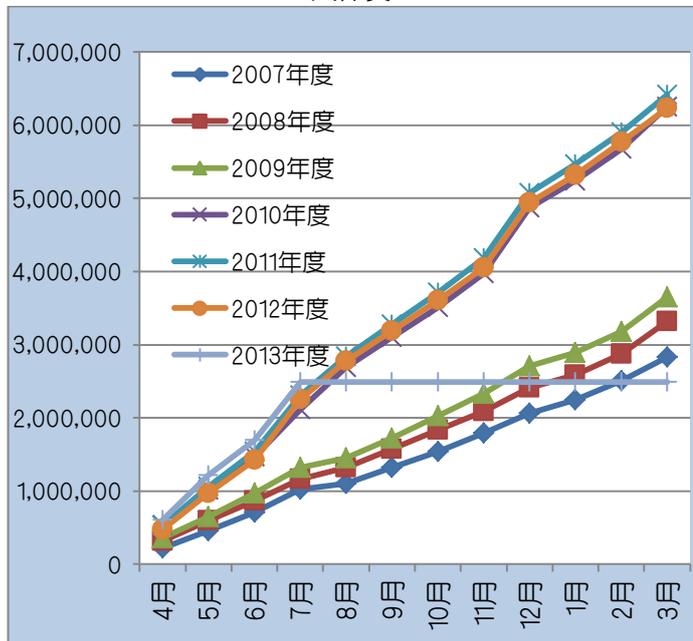
収支



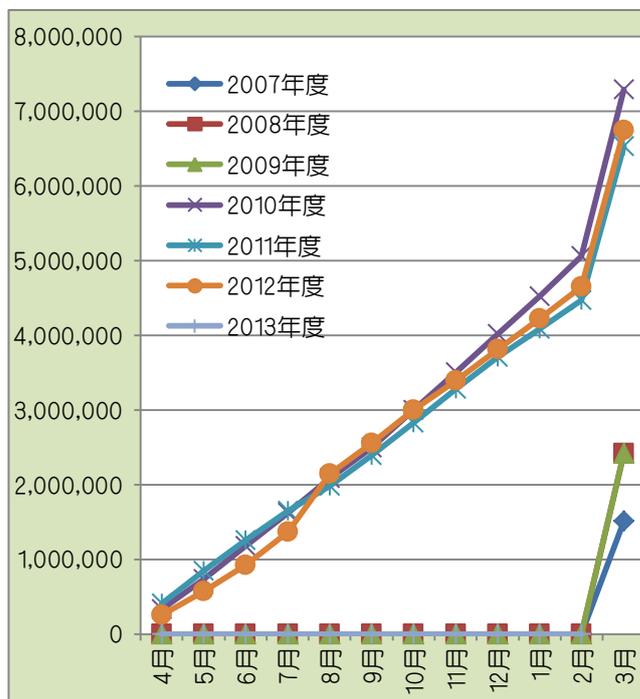
2010年より「幼稚園単独型認定こども園」へ。

左の2つのグラフ(収支・人件費)から見ても、実質、認定こども園移行に伴い、専任を配置などの対策のために人件費は増額。運営費を除いた純粋な運営収支は悪化。ただし、この本務職員は、経常費補助の定員内だった事、また、長時間保育以外の時間は、フリー職員としての人材確保にも役立ったため、純粋な人件費のコスト増とはならない利点もありました。

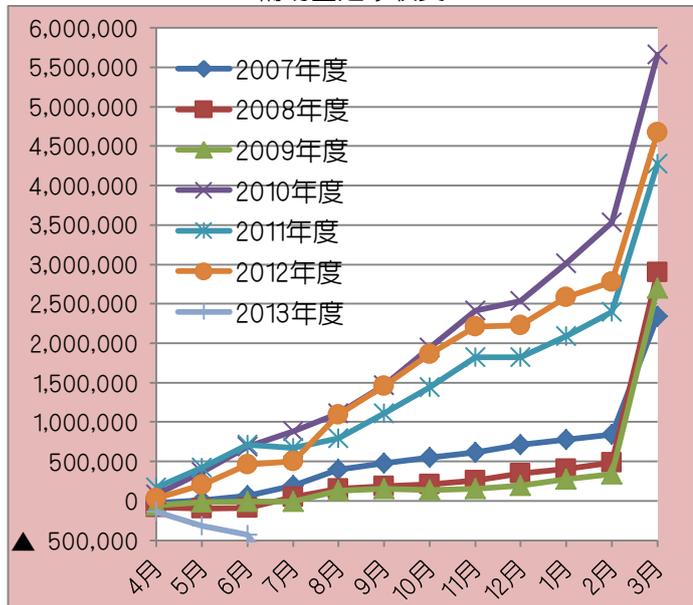
人件費



運営費



補助金込み収支



ただし、認定こども園認定後の運営費は、預り保育事業の各種補助金合計よりも格段に増額されます(上のグラフ参照)。かつ、国や東京都からの支出となるため、市町村の負担も少なく、市町村が独自に預り保育事業費を設定するなど財政圧迫無しに就労家庭や待機児解消に向けた幼稚園の長時間保育事業の充実を図れるものであります。

結果、長時間保育の利用料も、年間最大 42,000 円(3,500 円/月)の値下げを実行。保護者負担の大幅な軽減も 이뤄つつ、スタッフの充実、環境の充実を伴う長時間保育事業の様々な拡充、経営状態の改善を行う事が出来ました。

実際に預り保育という保育事業に進出している各幼稚園の現状があります。その上で、人員の育成、運営の工夫など、あと一歩の事業者側の工夫や努力で、このように総合的な効果をもたらす認定こども園制度の効果の報告とさせていただきます。

その後、「並列型」に進んだ理由

東村山むさしの認定こども園は、幼保連携「並列型」です。

互いの理念を尊重しつつ様々な環境やノウハウを利用しあうことにより、幼稚園も保育所も、これまで以上の各々の機能や質の向上を狙いとしています。

※幼保連携型は、幼稚園と保育所の両方が認可を受けていなければ認定を受けられません。故に、幼稚園型や保育所型、また、地方裁量型と異なり、幼・保どちらの基準も満たさなければならぬ施設であり、幼・保それぞれの厳しい基準が適用されています。



認定こども園には、多様なタイプがあり、
その中の「幼保連携型」の中にも、「並列型」と「年齢区分型」があります。

- ✦ **年齢区分型**は、幼稚園と2歳以下の認可保育園が併設されています。保育園児は3歳になると幼稚園へ入園となります。
- ✦ **並列型**は、1歳から5歳までの保育施設と、3歳～5歳までの幼稚園が併設されています。保育部に1歳で入園し5歳まで保育園で過ごすことも、また、3・4・5歳の時点で幼稚園へ転園することも可能です。



年齢区分の場合…

- 「両方のいい点を融合させて」がキャッチフレーズだったのに入ってみると、3歳以上はまるで幼稚園。」
- 「保育園→幼稚園とステップを踏みますが、幼稚園は保育料が倍！おまけに普通に幼稚園児の家庭と同じ立場になるので、平日の行事参加など負担が多い。」
- 「了承して入園させたものの、働く親にとって、参観日や平日行事に参加できず…」
- 保育園の父母会は主に夜間など。幼稚園保護者は昼間が通例。折り合いがつかない。
- 幼稚園も、土曜・春夏冬・お盆の開園が必須になる。
- 幼稚園保護者は、どちらかという「子育てにできるだけ関わり、教育参加や協力もしていきたい」という方々が主。様々な点で、考え方や許される時間が異なってくる。

※上記のような、リアルな現状や、抱く懸念がありました。

一本化の難しさ

現実としては、就学時までは子育ての主たる部分は家庭で行いたいご家庭、育児と外での教育のバランスを考へるご家庭、積極的な教育参加を望む家庭、就労しつつ幼稚園在園に努力しているご家庭、就労しつつ良き保育を望むご家庭、就労せざるを得ないご家庭、介護を必要としているご家庭、等、様々な状況や考え方や方針があり、そのすべてを解決できるものでもなく、是非を問えるものでもなく、一本化することも不可能であり、望ましい事でもありません。

また、親元を離れる時間の違い、施設で過ごす時間の違い、子ども達に潜在的に生まれてくるストレス、それらは、短時間利用児と長時間利用児では異なり、子どもが必要とするものに違いがあるんです。故に、在園中のカリキュラムにも神経を使うものであり、時間の過ごし方も、行えることも、適切なものは変わってきます。単に、「共通利用時間」という短絡的な思想で共通化できるものでもないのです。

無理せず、犠牲にせず、得意不得意を生かす

そもそも、幼稚園には、その使命や役割をもとに培ってきた歴史や文化や思想やカリキュラム、そして、様々なご家庭や子ども達のニーズがあります。
また、保育所にも、その使命や役割をもとに培ってきた歴史や文化や思想やカリキュラム、そして、様々なご家庭や子ども達のニーズがあります。

幼稚園を必要とし、望むご家庭があります。
保育園を必要とし、望むご家庭があります。

幼稚園には幼稚園ならではのハード・ソフト面における得意分野と不得意分野があります。
保育園には保育園ならではのハード・ソフト面における得意分野と不得意分野があります。

結論が、幼・保が歴史と適性を発揮しつつ、かつ、幼保の保護者間において存在する心理的な壁も当面は無視する事はできません。その中で、多岐にわたる思想や家庭にこたえるべく形も維持しつつ、相互に連携することで、幼・保がさらにその限界を超え、機能の向上を実現しうる「完全併設&連携」を選びました。

様々な大人の社会背景にいる多くの子ども達が、そのご家庭の思想やニーズを阻害されることなく、かつ、幼・保とも、さらに発展した環境下にて同じものを目指しつつ、ともに過ごし始めています。
連携下における日常がスタートした今も、あくまで、地域的な実情に即し、段階的なものかもしれませんが、「完全併設&連携」が現状における最善であることを、現場を通じ、実感しています。

並列型は、それぞれ認可を受けた幼稚園と保育園が併設されており、各々単独施設では困難だった環境を実現させるとともに、保護者のニーズにより様々な選択肢での入園が可能となります。

下の子が保育部、上の子が幼稚園といった方もいます。乳児と幼児の施設の分断という悩みもありません。
保育部の幼児クラスに幼稚園教諭を配置することで、幼児教育の導入もスムーズに行えます。
また、幼稚園の正課指導員による体育やリトミック、英語などの授業も同じく。
午後は、幼稚園で行っている各種課外教室に、保育園児も通っています。
単独の保育園設置では困難な、駐車場や園庭、プール、体育館、など、併設により、環境の充実を実現できています。

幼稚園側も、長時間の利用を前提に考えられた施設により、預り保育や給食・衛生など、多岐にわたる部分で単独幼稚園の時よりも、環境向上・機能向上・管理能力の向上を実現することができています。

※別紙、リアルに感じている教職員の報告書も参考にしてみてください。

守るのではなく、さらに良きものを作り出す。

制度がどう動くのか。

それよりも大切なのが、現状の幼稚園や保育所を、こういった形に進化させることができるのか。
そして、できる限り多くの子ども達に、充実した就学前教育保育の場を提供することができるのか。

幼保連携へ踏み出した不安はあります。幼・保の形も残ろうとしている中、社会的にどう評価され、どのような扱いになるのかもわかりません。

しかしながら、制度対応よりも大切なことは、元来、教育機関である教育機能の継承を第一にしつつ、未来を担う子ども、そして、理想的な環境整備への積極的な前進へ。

本質はここにあると信じ、迷うことなく、未来を目指すことにしたのです。

本園は、幼・保が併設する一施設ですが、市内各園、近隣各園が手を取り合って実現できることも、運営を通じ、たくさん見えてきています。

現実的に取り巻く市の財政状況、既存施設の状況、など存在し、しかし、だからこそ、それを受け止め、より良き市内の子育て環境に向けて進むべき政策の捻出や各園の努力が必要であり価値のあるものと感じています。

教職員の報告書

h、25、7、25

幼稚園教務主任・

幼保連携並列型に見え始めた効果についての報告書

- ✚ 行事の際や普段の保育に於いても互いの職員が、手伝いあえる環境にあるので心強い。
- ✚ 施設が併設しているため、長期休暇を利用してボランティア体験ができ職員間の交流も生まれ、互いの仕事内容の理解が深まった。
- ✚ 人事移動の際の職場のイメージが具体化しやすい環境にある。
- ✚ 職員数が増えたので、園庭利用の際多くの目で子どもたちを見ることができる。
- ✚ 乳児が身近にいるため、乳児の特性や衛生面での留意点等、今まで知り得なかった知識が増えた。より新しい情報が瞬時に入手できる環境になった。
- ✚ 保育園内での研修にも必要に応じて参加できるようになった。
- ✚ 保育棟に、ほふく室やエレベーターがあることによって今まで受け入れが難しかった重度の障がい児の受け入れや多彩な活動が可能になった。
- ✚ 併設している保育園に子どもを預けながら幼稚園に勤務することができ、雇用体系の幅が広がった。
- ✚ 兄弟で幼稚園・保育園に通わせることができ送迎が一か所なので、好都合であると感じる。
- ✚ 交通安全教室や、虫歯予防デー等の行事と一緒に参加利用することができる。一労で二の効果。
- ✚ 保育園・幼稚園の事務機能が統括されたことにより、担任は来客や電話対応に追われることなく業務に専念できる環境になった。

※新しい施設を利用することで気分も変わり、集中力もアップ。

※交流が増えたことで互いに良い刺激を受けることができる。

今後の課題

普段の保育の中で、生活時間のズレ・勤務体系の違い等があるので、思ったよりも異年齢間の子ども同士、職員同士かかわる時間が少ないと感じている。交流体験を増やすためのカリキュラムの見直しを今後、職員間で進めていけると更に良いと感じる。

幼保連携になり感じていること

報告者: 保育園主任

- ✚ むさしの幼稚園ならではの就学前教育カリキュラムの指導経験のある教諭が保育園の幼児クラス担任をしているので、むさしのの就学前教育を幼・保両方の担任が共通理解しつつ指導ができる。
- ✚ 幼稚園と同じ講師の為、保育園でも体育(1歳児のクラス～)、リトミック(2歳児のクラス～)の授業を保育時間の中にスムーズに盛り込むことができた。
- ✚ 連携施設の為、互いの施設を用途に応じて利用したり、幼保が合同で参加する行事を行うことができる。また合同で行うことで、大人の目が増えて安全面・役割の分業ができる利点がある。
- ✚ 幼稚園の子ども達ランチルームで作っている手作りの給食・おやつを提供することができるようになった。
- ✚ 保育園に特化した保健・衛生関係や職員研修等を、幼稚園にも取り入れることができる。
- ✚ 幼稚園教諭が夏期休暇中に保育園へボランティア体験をすることにより、乳児と接し、幼稚園入園前の子どもの育ちを学び、幼児の保育にもつなげることができた。
- ✚ 保育園はソーラー発電。幼稚園の教員・預かり保育の教員も保育園の本部・職員室に来て業務を行うなど、光

熱費を節電することができつつ、部署の違う教職員同士の交流も生まれた。

- ✚ 教材類等で不足しているものを、互いに借りることができ、急な時に助け合うことができる。
- ✚ 教職員の勤務形態が全く違うことに慣れない時期、幼稚園側の行事や地域参加の行事に保育園の保育士の参加を要する等、早番保育士(早朝6時半出勤)の退社時間に対して不公平感を感じていると思われる言動を保育士側に投げかけることがあったが、幼稚園の夏休み期間中の保育園へのボランティア体験により、幼稚園・保育園の役割や勤務体系の違いが理解でき、不公平感は払拭できた。

総務部長:

- ✚ 創立以来幼稚園で行われている、課外活動、体育教室・サッカー教室・新体操教室・剣道教室・ピアノ教室・美術教室・音楽教室・英会話教室が保護者のお迎えを待たずに、午後の保育時間内に受けられる。
- ✚ 課外教室の指導員が時間に保育園に迎えに行き、終了し次第保育園に預けに行くという事が実際行われている。
- ✚ 幼稚園に送迎用の園バスがある為、保育園も幼稚園のバスで遠足に行ける。
- ✚ 登降園時間が異なるため、保育園側でも幼稚園の駐車場が利用できる。
- ✚ 幼稚園側に2歳・4歳の二人の子どもを育てている教諭が勤務しています。朝も子どもと共に出勤。帰りも子どもと共に帰宅。仕事も生活も共に充実した毎日を送っている。こうした子育てをしながら、お母さんが働ける施設になりました。
- ✚ 今までの単独型の幼稚園では、お母さんになりなかなか勤務する事が難しい状況で、結婚を機に退職することが当たり前で、終身雇用を実現する事はなかなか難しく考えられていましたが、実現できる可能性が膨らんできました。
- ✚ 1歳～6歳までの子ども達が園庭で接する機会が増え、特に幼稚園の4歳・5歳児は、保育園1歳児を見ると「かわいい～！」とまるで、自分の弟・妹的な感覚で話しかけたり、面倒を見たりと縦割り保育でいまままでできなかった年の差の大きい異年齢との接触が自然とできるようになりました。
- ✚ 保育園の3・4・5歳児は、幼稚園にあるプールを利用できるため、保育園ではビニールプールのみと、年齢別で効率的に配備できる。

平成 25 年 8 月

事務長

- ✚ 保育園・幼稚園をあわせることで園児一人当たりの給食費単価が下がる
- ✚ 学園の園児・教職員が栄養のバランスが行き届いた温かい給食を食べることができる。
- ✚ 二園同日に消防設備点検を行うことでコストダウン
- ✚ 日用品等も共有するものは大きな単位で発注
- ✚ 共有することでインシャルコストがかからなかったり、ランニングコストを下げたり、一から準備しなおす必要がない

【人・施設・システムの共有】

- ✚ 園庭・プール・事務室・正門・駐車場、車、ショップ・ランチルーム・多目的室・相談室の共有。体育教師、パート、課外授業等の共有。保育料徴収システムの共有。効率的かつ経済的である。
- ✚ 保育園にそろっていなかった紙芝居などは幼稚園にないものを発注し、幼稚園・保育園・あずかり保育でローテーションできるようにする。単園よりも多くの種類に触れることができる。
- ✚ 単園としてではなく保育園、幼稚園の看板にすることで、単園の場合より広告費が抑えられる。職員の募集も同じ。
- ✚ 幼稚園が培った信用、ネームバリューで保育園をスタートすることで、目立った宣伝をすることなく、園に理解の深い保護者を集めることができた。H25 年度の保育園入園希望者のうち、むさしの保育園を知ったきっかけとし

て 41%が幼稚園関係者の口コミ、15%が幼稚園と共有の看板であった。利用者のみならず金融機関、業者に対しての信用も一から築きなおす必要はなくスムーズにスタートをすることができた。

- ✚ 学園として人的な厚みが増した
- ✚ むさしの幼稚園をベースに施設長を初めとした保育園畑出身者による知識、経験の導入があり人的な厚みが増した。親の代わりとして長時間子供を預かるためのノウハウ、心構え、怪我、病気に対する対処方法、分析、こまやかな目配り等は今後幼保の人事的シャッフルに伴い学園全体の危機管理能力の向上、サービスの向上につながる。逆に幼稚園教員2名を保育部としたことで幼稚園教員の持つ集団を統率する手法を保育に導入。職員にとって今後どちらで働くにせよ、一人の人間が教育、保育の二つのことなるノウハウ、観点を持つことは対応力、サービスの向上につながる。
- ✚ 幼稚園では3歳児からの入園である。しかし子供の発達には段階があり突きつければ3歳を知るには2歳を知り、2歳を知るには1歳を知る必要がある。保育園を開園することで幼稚園スタート時の3歳に至るまでの子供たちの発達過程や、背景等に触れることができる。
- ✚ 幼稚園に今まで預けていた園児を保育園に預け変えたり、下の子とともに保育園と幼稚園両方に預けるケースがでている。保育園は性質上、園児の家庭状況まで深く把握をする。幼稚園単体では把握できなかった園児の背景の部分の情報量が増し、よりきめ細やかなバックアップが可能となるケースがあった。
- ✚ 幼稚園教員が保育園に自分の子供を預け、保育園職員が幼稚園に自分の子供を預けることで、職員の生活の助けになるだけでなく、利用者と職員が入り混じることで、両者の垣根が下がる。利用者＝職員であり、園の改善点等が利用者の視点からフィードバックされる為、今後サービスの向上につながっていく。園の運営が一方的になることなく公平なものに保たれる。また地域の子育て世代を雇用の創出という面からもバックアップ。
- ✚ 同じ地域においても保育園と幼稚園とでは所轄や横のつながりが異なり違った角度からの情報が入る。一つのことを異なる二つの角度から見ることで物事はより立体的に見える。地域における子育て世代に対しより細かいバックアップできる可能性が高まる。また幼稚園では行っていない教職員の検便検査を保育園の高い基準に合わせて学園として今後開始する等、互いにより高い質を備えられる未来がある。
- ✚ 当園は保育園の他に、幼稚園+あずかり保育という選択肢があり、進級とともに幼稚園に切り替えることが可能である。切り替えても同じ学園内の為、転園にもなう子供や親に対する精神的負担も少ない。同じ園庭等を利用しながら同一の方針をもとに生活に合わせた保育・教育のコースを選択できることは大きい。
- ✚ 幼稚園と保育園という異なる役割を持つ認定こども園に所属することは子供たちに提供できることの幅が増える。また、同じ子供に接する仕事ではあるが保育園と幼稚園では適正も異なる。今後より自分に合った道を模索したり、部署の異動により自分では気が付かなかった適正や能力に気が付くこともある。

むさしの保育園に娘を通わせて感じていること

むさしの幼稚園

以前通わせていた保育園を退園し、平成25年度4月よりむさしの保育園に4歳と2歳の娘を転園させ約半年が過ぎようとしています。この半年で母としてむさしの保育園に我が子を預けて感じている事を挙げます。

- 1、 昨年度は他の保育園に預けながらむさしの幼稚園で勤務していました。その為保育園に預けるのは、いつも早く帰りは1番最後に迎えに行くことも多々あり、子どもにとって大きな負担となっていました。保育園に行く車の中では毎朝のように「ママ、今日は最後にならないでよ。」「○○ちゃんはいつも早く迎えに来るよ。」と不安そうに娘が話していました。しかし職場と隣接する保育園に転園させた所、朝も前より遅くに登園させることが可能になり、お迎えも他の園児が沢山いる時間に迎えに行くことが出来るようになりました。その為娘はむさしの保育園に入ってから、以前のような不安そうな表情で車に乗り込むことがなくなりました。
- 2、 以前の保育園では考えられない程、広い園庭があり大きな施設を幼保連携型なので使用することが出来、この半年の間に娘たちの体力が付きました。以前の保育園では園庭というものがなく、近くの公園も小さな公園のみ、しかも毎日散歩に出かけるわけではないので外遊びの時間が幼稚園児と比べて少ないと感じていました。しかしむさしの保育園では毎日のように散歩に行くか、広い園庭で遊ぶことが出来る機会が多く、去年までは出来なかったブランコや鉄棒を自信たっぷりに楽しんで行う姿が見られるようになりました。また昼寝後も園庭で遊ぶ時間を設けてもらっているようで、他の保育園に比べて沢山の外遊びを経験させることが出来ているのではないかと感じています。また幼稚園の体育館が空いている時間には保育園の子どもが気軽に使え、担任の先生たちとエアードリームを楽しんだりする時間に使えていることも喜ばしいことです。
- 3、 幼稚園教諭だった職員が保育園の幼児クラスの担任をしている為、就学前教育も含めた指導を受けられることに感謝しています。また2歳の娘も体育、リトミックの時間があり、とても良い経験に繋がると感じています。
- 4、 保育園の先生は常に座って保育するイメージが去年1年間を通して私の中でありましたが、むさしの保育園の職員の方々は幼稚園でも働いた経験をしている方が多く、よく動いて、一人ひとりの子どもをしっかり見

てくれる質の高い方が多い保育園だと感じています。

- 5、 幼稚園の交通安全教室や歯磨き指導などの行事に参加させてもらえ、幼稚園に本来ならば娘たちを入園させたかった私にとってとても喜ばしいことでした。保育園に子どもを入れている方の中には私のように、幼稚園へ憧れている親は沢山いると思います。保育園に我が子を入園させなければいけない状況の親にとって幼稚園の子ども達と一緒に行事に参加できることはとても大きな幸せです。
- 6、 給食がミールケアになったことで、以前は食べなかった野菜を食べたり、給食を完食することが増えました。初めは子どもが好きなパスタやラーメンがあまり出ず、日本食中心の献立に食べられるかと心配していましたが、食材本来の味を引き出して料理してくれる給食を毎日提供していただき、以前の保育園より子どもが好きなメニューが少ないのにもかかわらず、むさしの保育園の方が喜んで食べるようになりました。また箸の持ち方の指導をしてくださったり、ふりかけを作る活動を入れてくれたり、本当に良く食育をしてくれている保育園だと感じています。
- 7、 幼稚園と保育園の行事が予め別日に設定してある為、以前の保育園ではほとんどの行事に参加できず親子共々悲しい思いをしてきましたが、今年から運動会、発表会など娘の大きな行事に参加できる予定であることも幼保連携の職場で働き、保育園に娘を預ける母として良かったことの一つです。